

# 日本の音楽教育メソッドの展開 ーベネズエラ エル・システマの礎ー

菊川 穰

エル・システマとは、子どもたちに無償でオーケストラやコーラス等の集団での音楽教育を与えることで、自己肯定感や社会性を高めることを目的とした社会包摂的な芸術活動である。高名な経済学者、宗教者、政治家でもある音楽家ホセ・アントニア・アブレウのリーダーシップのもと、音楽関係者によるベネズエラで1975年に一民間活動として始まった。しかし、後に国家事業となり、現在では、約90万人の子どもが、国内に広がる200以上の活動拠点に参加する、世界最大の音楽教育プログラムとなり、理念に共鳴した活動が70以上の国・地域で展開している。

組織としては、現在は、シモン・ボリバル音楽財団 (Fundación Musical Simón Bolívar-FMSB) と名称を変えているが、当初はFESNOJIV (La Fundación del Estado para el Sistema Nacional de las Orquestas Juveniles e Infantiles de Venezuela-国立財団ベネズエラ児童青少年オーケストラシステム) が運営主体で、この名称にあるオーケストラシステムという部分がエル・システマという通称のもとになっている。現口サンゼルスフィルハーモニックの音楽・芸術監督であるグスターボ・ドゥダメル、ベルリンフィルハーモニックに史上最年少(当時)で入団したコントラバス奏者エディクソン・ルイス等、世界的な音楽家を輩出しており、その芸術性の高さは、故クラウディオ・アッパード、サイモン・ラトル、プラシド・ドミンゴ等の世界的巨匠音楽家

から絶賛されている。

経済的、社会的に困難な状況にある子どもたちも、一流の芸術体験を積むことで、その困難を乗り越えていける力を身につけることができ、そのことが、周りの大人を変え、いずれは社会も変えていく、という大きな理想。故に、富が偏在しており、麻薬犯罪等に巻き込まれ、命を失う若者が後を絶たない状況をふまえ、歴代のベネズエラ政権が、右派・左派という政治的立場に関わらずエル・システマを国家事業として支え、拡大してきた。また、資金的な支援をベネズエラ政府経由で実施していた米州開発銀行 (IDB) から、子どもたちを犯罪から守る活動として費用対効果の面で評価されている。(IDB "IDB Country Strategy with the Bolivarian Republic of Venezuela 2011 - 2014")



クラシックの名曲だけでなく、それぞれの地域に根ざした民族音楽も取り入れている。経験のある子どもが、初心者を教える仕組みが、どこでも徹底されている



地域のショッピングセンターにて、マーラー第2交響曲を演奏するエル・システマの子どもたち。毎週、ベネズエラ国内300地域にある活動拠点で、このような家族や地域に無料で開かれたコンサートが行われている(写真は、特記ないものはすべて執筆者撮影)

実は、このエル・システマが始まるにあたって、日本発の才能教育研究会(スズキ・メソッド)が大きな影響を与えた。スズキ・メソッドは、音楽家の鈴木鎮一が、戦後間もない頃に創設した全国幼児教育同志会が始めた音楽教育メソッドである。人は誰でも言語習得ができるように、音楽においても「どの子どもも育つ」という理念に基づき、「平易なことを立派にできるように育てる」、「難しくなるとゆくことを、少しも子どもに感じさせぬよう、自然に程度を進めていくこと」を基本的な指導方法としている(鈴木鎮一『鈴木鎮一全集1、能力の発見』)。